

リキテンスタイン | 版画の宇宙 | 展 1948-1997



〈夢想〉1965年、徳島県立近代美術館

white pool of light 1965

©Estate of Roy Lichtenstein, New York & SPDA, Tokyo, 1998

1998年9月18日 ^{FRI.}金 — 10月25日 ^{SUN.}日 高松市美術館 Takamatsu City Museum of Art

■休館日=月曜日 ■開館時間=午前9時-午後5時(入室は午後4時30分まで)/初日は午前10時開展/毎週金曜日は午後7時まで開館(入室は午後6時30分まで) ■高松市紺屋町10-4 Tel.087-823-1711

主催=高松市美術館/四国新聞社/西日本放送

■入場料=一般900円(720円)/高大生600円(480円)/小中生300円(240円)

* ()内は前売りおよび団体20名様以上の料金*高松市に住所を有する長寿手帳・身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳所持者は無料*第2・4土曜日は小・中・高生無料

ROY LICHTENSTEIN

ポップ・アートの巨匠ロイ・リキテンスタインの待望の版画展を、日本で初めて開催することになりました。

リキテンスタインは早くから版画に関心を持ち、1948年に最初のリトグラフを制作しています。50年代はドイツ表現派の影響の色濃い木版やエッチングを手がけ、60年代に入ると漫画や広告を拡大した、よく知られるスタイルのリトグラフやスクリーンプリントを次々と発表します。自らの個展のポスター、仲間と共同出版の版画集、紙製のショッピング・バッグなどを制作し、アートを広く大衆のものにしようとしたポップ・アートにとって、版画こそは多くの人の目にふれ、手に届く最良のメディアであることを示したのです。

ポップ・アートはまた、身の回りを、社会を、そして過去の美術を、新しい視点で見直すものでもありました。70年代からはモネの連作やピカソ、マチスなどを下敷きとした作品により、リキテンスタインは20世紀後半を担う正統派画家の道を歩み始めます。

80年代以降、版画技法の円熟とともに、サイズも大型化しますが、〈反射シリーズ〉やく室内〉など、改めて日常のテーマがいつそうの親しみとユーモアをもって綴られました。

本展は、昨年9月に急逝されたリキテンスタイン氏の50年にわたる版画制作を、代表作約90点により回顧するものです。

生前の氏が熱心に取り組み、開催を楽しみにしておられた本展は、リキテンスタイン芸術の果てしない宇宙の広がりを感じて体験させてくれるでしょう。



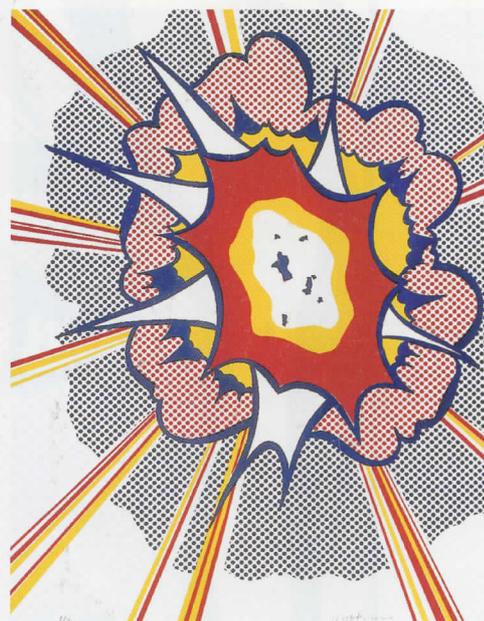
《聖ジョージと龍 (I) [龍退治]》1950年



《反射：大泣き》1990年、CCGA・現代グラフィックアートセンター



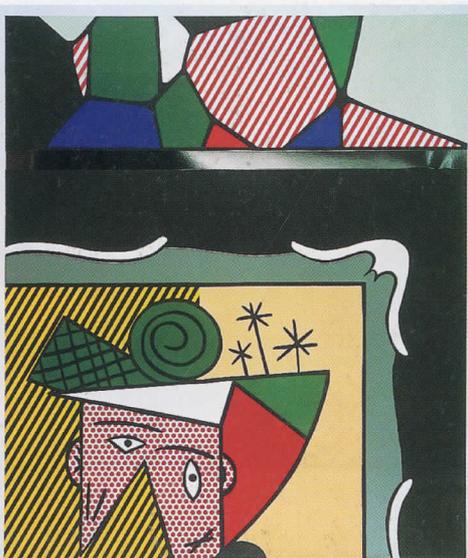
《よい夢でも見ている、ベイビー》1965年、徳島県立近代美術館



《爆発》1967年



《詩人のいる風景》
1996年、ジェミナイ
版画工房



《2枚の絵》1984年、ジェミナイ版画工房



《黄色い枕の裸婦》1994年、CCGA・現代グラフィックアートセンター

ROY LICHTENSTEIN

- 記念講演会のお知らせ
「ポップの料理法」講師：間島領一（美術家）
9月20日（日）午後1時30分から/高松市美術館1階講堂にて/入場料無料/先着200名様
- ギャラリートーク
当館学芸員が展示作品の解説をいたします。
9月19日、10月3、10、25日/午後2時より2階展示室にて
- 次回展覧会のお知らせ
「開館10周年記念—ロダン展」11月3日（火）—12月13日（日）
- ミュージアム・ライブのお知らせ
「珍しいキノコ舞踏団」10月1日（木）2日（金）ワークショップ/10月3日（土）ダンス公演